

新年にあたって

会長 船木 正也

2019年の年が明けました。

今年は30年続いた「平成」から新しい時代に移り変わる境目です。そして、いよいよ1年半後には東京オリンピック・パラリンピックが迫ってきました。

加速的に進展する社会の中で、「スポーツ」が人々の幸福感に寄与する度合いは日々高まっています。国際大会で日本人選手が活躍する姿は幅広く報道され、常に国民の注目の的。また健康を意図した人々のスポーツ志向は益々盛んになってきていると言えるでしょう。そして、スポーツ庁は国内のスポーツ産業を2025年までに15兆円規模に拡大することを標榜しています。

そのスポーツ界でも、1964年東京オリンピックのレガシーとして今も脈々と息づいている象徴的存在こそ、バレーボールです。そして長野県が、そのバレーボールが最も盛んな県の一つとして注目されていることは、当協会にとっても大いなる誇りに思います。

現在、VC長野トライデンツが国内トップであるV1リーグに、また長野☆GaRonsがV2リーグに参戦中です。そして、2019/20シーズンからはルートイングループ・ブリリアントアリーズが女子V2リーグに挑戦することとなりました。それぞれのチームがそれぞれのリーグで大いに活躍してくれることこそ、長野県のバレーボール熱を益々高めてくれるものと、期待を膨らませると共に精一杯の声援を送りたいと思います。

一方で、バレーボールは、小・中・高・大学・実業団・クラブ・ビーチ・ソフト・ママさんなど、誰にでも開かれたスポーツでもあります。種目を問わず長野県に於けるバレーボールは日々前進しています。

私たち、一般財団法人長野県バレーボール協会は、この素晴らしいチームスポーツを通じて、「若者の健全な人間形成」「健康長寿に貢献する生涯スポーツ」「地域コミュニティの活性化」といった社会的貢献に大きく寄与していきたいと思っています。また、2027年に予定されている「ながの国体」に向けて選手育成・強化も固らなければなりません。

これらの幾つものテーマを解決し、県民の幸福感に寄与するためには、年間を通して数多くの大会運営にご尽力頂いている協会関係者や、ご協力頂いているボランティアの皆さんを含め、多くの方々のお力添えがなければ、決して前に進むことはできません。

この場をお借りして、皆々様の益々のご協力をお願い申し上げますと同時に、県内のバレーボールが更に活発になる事、そして各競技会に出場される全てのチームが大活躍される事を心よりお祈りして、年頭の挨拶とさせていただきます。

以上

北信越バレーボール連盟 各県正副理事長(専務理事)会議開催される

【専務理事 竹淵光雄】

今年度は福井県が当番県として平成30年12月8日(土)、小浜市阿納民宿「かわはら」において各県正副理事長(専務理事)会議が開催されました。本県からは、専務理事の竹淵と村上里志理事が出席しました。

会議の冒頭、北信越連盟の長谷川理事長から、今年度事業への各県の協力に対して感謝の言葉が述べられました。後2回ほど各県理事長が集まる機会があるので、次年度に向け準備をして行きたいとの説明がありました。

会議内容は、平成31年度予算(案)・北信越連盟申し合わせ事項の確認・北信越連盟会議及び大会等の開催順序の確認等で、これらの議題について事務局より説明があり、慎重に審議されて承認されました。

この中で平成31年度は、本県が理事長・委員長会議、正副理事長会議の幹事県の当番となり、計画を推進することになりました。また、北信越春季大学選手権・高校長身者合宿・中学校長身者合宿が開催されることが決定しており、各大会等がスムーズに終了出来ますよう更なるご支援・ご協力をお願い致します。

昨年度の国民体育大会開催の福井県からは、開催協力へのお礼の挨拶がありました。

各県正副理事長(専務理事)会議終了後、各県理事長会議が開催され、新年度北信越連盟理事長の選任と、審判委員長の選任が協議され、次期北信越連盟理事長には富山県の奥村祐年氏が、審判委員長には新潟県の高野淳志氏が選任されました。競技委員長と指導普及委員長については、4月開催の理事長・委員長会議で提案・審議されることとなります。また、北信越連盟規約の改正については、来年4月1日の改正を目指して協議していくこととなりました。

更に会議終了後は、地元福井県協会の松崎晃治会長にも参加頂き、情報交換会が行われて役員の懇親と慰労を深めました。

2018-19V・LEAGUE Division2 MEN

長野☆GaRons(ガロンス) 今季最初のホームゲームを勝利で飾れず

【須高協会理事長 吉澤康幸】

12月8日(土)・9日(日)、須坂市市民体育館でVリーグ(V2)長野ガロンスのホームゲームが今季初めて行われました。

両日とも1試合のみで日程に多少の余裕ができ、試合の前後に選手との交流も行われました。



8日は大同特殊鋼レッドスター(以下「大同」と対戦しました。

第1セット序盤、両チームともに点を取り合ってまずまずのスタートでしたが、大同の強力なスパイクが徐々に決まり始め、7-10とされてそのまま中盤へ。松橋のサービスエースで2点差としましたが、大同に流れが行くと一気に15-21とされ、そのまま20-25でセットを失いました。

第2セットは大同ペースで進み、14-25で押し切られました。

第3セット序盤は一進一退で進み、6-5としましたが、大同の粘り強いレシーブと攻撃に手を焼き、終盤に清水のバックアタックや浅田のブロックで追い上げましたが、19-25でゲームセットとなりました。

翌9日は富士通カワサキレッドスピリッツ（以下「富士通」）と対戦しました。

第1セット序盤は清水・藤井のスパイクが決まり、良いスタートを切りました。中盤も善戦して15-16と僅差のまま終盤に入りましたが、ここでミスが出てしまい、22-25でセットを失いました。

第2セットは8日同様相手ペースで進み、攻撃が単調となって失点が続き、16-25で失いました。



第3セットは互いに点を取り合う形となり、12-14とすると、藤井の強力なスパイクや夏目のレシーブで応戦して19-18とリードしました。しかし最後は富士通の力に押し切られ、22-25で敗戦となりました。

残念な結果ではありましたが、ガロonzの巻き返しを期待したいと存じます。

最後に、大会の準備や運営にご協力下さった皆様に感謝申し上げます。



JOCジュニアオリンピックカップ 第32回全国都道府県対抗中学バレーボール大会

男子は相次ぐ怪我に泣き 女子も決勝トーナメント2回戦で敗退

【県中体連専門委員長 牛田佳伸・県協会強化委員 木下久資】

12月22日（土）、梓川中学校での壮行会では、主催者である読売新聞社本支局長の五十嵐様や本協会の竹淵専務理事から激励の言葉を頂戴した後、地元中学校で最終調整。翌日には男女共出発し、男子は近畿大学、女子は中京大学に入ってミニ合宿を行い、本大会に備えました。

25日（火）は試合会場での練習と開会式のみでしたが、開会式では男女計96チーム（47都道府県代表の対抗戦だが、開催地の大阪は南北2チーム）が入場行進を行い、本県は女子の西澤望未副将がプラカード持ちを、そして男子の石坂朋也主将が旗手を務めました。又、式中には、男子の北澤憲太マネージャーの奥様であり、リオデジャネイロ五輪のアーティスティックスイミング銅メダリストである愛香さん（旧姓：箱山）がメダリストスピーチを行いました。

戦いは26日（水）の予選グループ戦から火蓋が切られました。予選グループ戦は、3チームによるリーグ戦で、上位2チームが決勝トーナメント進出となります。





男子の初戦は熊本県との対戦でしたが、硬さからクイックが決まらずにエース頼みとなる一方、跳躍力のある相手エースを止められず、22点と21点の敗戦スタートとなってしまいました。2戦目は、互いに1敗同士で迎えた福島県とのサバイバルマッチでした。福島は、夏の全国大会に出場した2校を中心とするチームで、対戦前は不安もありましたが、1セット目中盤から抜け出すと、21点に抑えてセットを奪った後も長野ペース。2セット目も14-8と大きくリードしました。しかし、ここで182cmのエース：石坂主将がブロックに跳んだ際、突っ込んで来た相手の足の上に乗って捻挫。戦線離脱を余儀なくされるという事態に陥ってしまいました。

この大会では180kg以上の選手を常時2名以上コート上に置くことという特別ルールがあるため、このアクシデントの影響は非常に大きく、単にエース不在というだけでなく、180kg以上あるミドルブロッカーに代えて守備固めの選手を投入することも出来なくなったということでもありました。実は、大会1週間前の練習試合でも、スタメンを予定していたミドルブロッカーが右手親指の脱臼で戦列を離れるという事態にも直面していました。結局このセットは福島の激しい追い上げを全員一丸となって凌ぎ、25-21で勝利。この組の2位で決勝トーナメント進出を決めましたが、悪夢のような怪我の連鎖でした。

そのトーナメントの初戦は、181kgのサウスポーエースを擁し、例年になく戦力の高い和歌山県との対戦でした。石坂主将は、試合前に練習はしたものの、矢張り試合出場はかなわず、序盤は大きくリードされましたが、中盤以降、攻撃に思い切りの良さが出始め、17-21からブロックや裏エース：吉沢のバックアタック等で21-23と詰め寄りしました。しかし、最後は相手のサウスポーエースにバックアタックを決められて第1セットを落とすと、第2セットは相手の一方的なペースとなってしまいました。クイックが決まらなくなり、逆に相手クイックにかき回され、14点での敗戦でした。



さて一方の女子ですが、予選グループ戦では三重県・沖縄県と対戦しました。幾度となく練習試合を重ねた三重との一戦は、初戦の硬さも見られましたが、練習で積み重ねた高速コンビバレーを随所に発揮し、18点・18点に抑えて勝利しました。2年連続の対戦となった2試合目の沖縄戦では、ミスが出るも要所を締め、同じく18点・18点で振り切り、この組の1位となって決勝トーナメントに進出しました。

トーナメント1回戦の相手は、15組を2位で通過した山形県。1セット目は、硬さが見られましたが、中盤に抜け出し21点で1セット目を取ると、2セット目は相手のミスや長野の攻撃が機能して13点での完勝でした。

2回戦の相手は滋賀県。1セット目は、長野にサーブやスパイクのミスが出るのに対し、相手にはBクイック等を決められて20点でセットを失いました。2セット目は、セッター：藤澤を中心に、北原・北村・伴野のスパイク、宮下のクイックやフェイント等で得点を重ね、中盤までリードしていきました。しかし、17-13と4点リードの辺りから滋賀が再びBクイックを多用し始めると、センターから強打も決められて

20-20 と追いつかれ、一進一退の攻防となりました。最後はセンターからのスパイクを読まれてブロックされ、23 点で敗退となってしまいました。今年の女子は、第 1 回大会から当然のように選出されていた裾花中の選手不在の中で、北信越大会等の出場経験のない選手が、スタッフ共に 4 ヶ月間ひたむきに練習を積み重ね、日に日に成長していく姿を頼もしく感じました。男子の選手も含めて、この経験を今後活かして欲しいと思います。

最後になりましたが、御支援頂きました読売新聞社様、(一財)長野県バレーボール協会の皆様、そして県内各高校の皆様に御礼を申し上げます。

(公財)日本スポーツ協会公認バレーボール指導員養成講習会を開催

【県指導普及委員 桑原康秀】

11 月 4 日 (日)、10 日 (土)・11 日 (日)、12 月 8 日 (土)・9 日 (日) の 5 日間、大町市において標記講習会を実施しました。小・中・高校生の指導者、実業団、クラブのプレーヤー、現役大学生など県外からの受講生も含め、37 名が指導員の資格取得に向けて受講しました。

11 月 4 日の開校式には竹淵専務理事にご挨拶を頂き、続いて江村副会長を講師にお招きして「日本バレーボールの歴史」から講習会が始まりました。



計 5 日間の講習は、県内で活躍をされております上級コーチ、コーチの皆様を講師に「バレーボールの技術論」「基本技術実習」「救急法実習」「マッサージ実習」「初心者導入法」「6・9 人制のルール」他 30 時間の集合講習を行いました。

12 月 9 日の閉校式では、田原常務理事より修了証を渡して頂き、講習会を終了しました。今回、専門科目を修了された方は、共通科目の結果と合わせて平成 31 年 10 月に指導員として認定されます。



競技団体理事長・競技力向上専門委員会合同会議(国体種目)が開催されました

【県強化副委員長 鏡味照明】

標記会議が 12 月 14 日 (金) 13 時 30 分より長野県スポーツ会館会議室に於いて開催され、当協会からは竹淵専務理事と強化副委員長の鏡味が出席しました。

冒頭の挨拶では、丸山県体協専務理事から、9 年後の本県開催国民体育大会参加に向け、競技力向上対策本部が立ち上げられて活動を始めている事、総合開会式会場や第 1 次分の競技会場も決まって準備が進んでいる事。次に、古澤競技力向上委員長からは、今年度の成績として、冬の国体での男女共の総合 1 位、夏の国体では北信越通過が 49 種別 (内 1 位通過が 29 種別、



団体競技が 8 種別) と、昨年よりも好成績で本国体参加数が増えたことが天皇杯 15 位以内を達成できた要因であった事、しかしながら富山県、石川県も 5 位以上ランクを上げている事から、今後もさらに各団体の皆さんの研鑽をお願いしたいとのお言葉がありました。

その後の報告事項では、松沢県体協競技係長より、今年度の成績の詳細を報告していただき、天皇杯 13 位は 20 年ぶりの好成績であり、その要因の一つに団体種目の入賞が大きかった事が挙げられました (バレーボール競技の少年男子 3 位、成年男子 5 位入賞は高い貢献度がありました)。



また、協議事項では、2019 年度の競技力向上対策基本方針案が提示され、2027 年国民体育大会とその後を見据えた、中長期的なビジョンを描きながら来年度の取り組みを確認しました。その中で、バレーボール競技は継続して重点期待競技に指定され、重点期待種別には少年男子が、期待種別には少年男子・成年男子が指定されました。さらにはジュニア競技力向上事業においても、重点強化クラブに 2 クラブ、特別強化校に高校男子、強化校に高校女子それぞれ 1 校が継続して指定されました。

研究協議では、最初に松沢県体協競技係長に「本年度国民体育大会成績の総括から本県競技力の課題と 2027 年国体に向けた競技力向上対策」を解り易く説明していただきました。続けて内山スポーツ課指導主事より「長野県競技力向上対策本部」が取り組み始めた環境整備・人材発掘等のビジョンの説明があり、最後に片瀬体協幹事による「チーム長野の挑戦！」と題して、前回の長野国体の様子の資料から、ラグビーワールドカップで日本が南アフリカに劇的な勝利を挙げた映像を流しながら、「オール長野として皆がつながり頑張ろう！」と力強いプレゼンテーションをしていただき終了しました。

バレーボール協会としても、これから人材育成や環境整備について、まずは「バレーボールのオール長野」の構築を目指して取り組まなければいけないと感じました。

12 月 試 合 結 果

☆ 全日本 9 人制総合男子・女子選手権大会

http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2018siaikeka/H30.11.29_9sogo_zenkoku.pdf

☆ 第 7 回全国ソフトバレースポレクフェスティバル

http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2018siaikeka/H30.12.1soft_sporec.pdf

☆ 第 23 回あすなる地域交流大会

<http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2018siaikeka/H30.12.1asunaro.pdf>

☆ 第 8 回全国ママさんバレーボール冬季大会

http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2018siaikeka/H30.12.7mamasan_touki.pdf

☆ 天皇杯・皇后杯全日本選手権大会ファイナルラウンド

http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2018siaikeka/H30.12.23tennouhai_zenkoku.pdf

☆ JOC 第 32 全国都道府県対抗中学バレーボール大会

<http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2018siaikeka/H30.12.28joc.pdf>

1 月 スケジュール

1/5 (土) ~ 13 (日)	第 71 回全日本バレーボール高等学校選手権大会	(東京都)
1/16 (水)	日本バレーボール協会 評議員懇談会	(東京都)
1/18 (金)	信濃毎日新聞社 長野県文化・芸術・スポーツ団体 新春パーティー	(長野市)
1/19 (土) ~ 21 (月)	長野県高等学校新人体育大会バレーボール競技会	(松本市)
1/22 (火)	長野県体育協会 第 3 回総務専門委員会	(長野市)
1/26 (土) ~ 27 (日)	エプソン杯第 34 回長野県中学校選抜優勝大会	(長野市)
〃	2018-19 V.LEAGUE Division1 MEN	(松本市)

いつも NVA ニュースをご覧いただきありがとうございます
 皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします
 本年も宜しくお願いいたします

NVA ニュース編集委員会
 竹淵光雄、内山政則、木下久資、堀内和美